

- 大阪・上町東遺跡**  
 うえまちひがし
- 1 所在地 大阪府泉佐野市上町二丁目
  - 2 調査期間 一九九八年（平10）三月～五月
  - 3 発掘機関 泉佐野市教育委員会
  - 4 調査担当者 中岡 勝
  - 5 遺跡の種類 集落跡
  - 6 遺跡の年代 鎌倉時代末期～江戸時代
  - 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
 当遺跡は、中世集落で著名な上町遺跡・市場西遺跡の東に位置する。これまで、掘立柱建物・柵・井戸・土坑・墓壙・溝などからなる鎌倉時代の集落が良好な状態で確認され、瓦器・土師器などの他、多量の櫛の未製品・鉄器・フイゴの羽口といつた特殊遺物も出土し、中世工人（職人）の存在が推定されている。
  - 8 木簡の糸文・内容  
 (1) 「□ 市場 四郎兵衛」  
 (2) 「□□」  
 150×23×5 011

墨書の遺存状態は悪い。上・下端とも未調整のままである。材上部に押圧線の痕跡が数条認められ、付札木簡の可能性が高い。職人を想起させる遺物と「市場」の記載から、当遺跡周辺が「政基公旅引付」に記載される「佐野市場」である可能性が非常に高くなつた。

9 関係文献  
 泉佐野市教育委員会『上町東遺跡九七一二区の調査』（一九九九年）  
 （中岡 勝）

（岸和田）  
 今回、共同住宅建設に伴  
 い一七〇〇m<sup>2</sup>を調査した。



検出遺構は、鎌倉時代末～室町時代の掘立柱建物・溝（約六区画）・土坑・落ち込みと、江戸時代の耕作地・井戸である。遺物は、建物・区画溝などから瓦器・土師器・土師質土器・瓦質土器・瓦が出土した。木簡が出土した井戸SE〇一は、直径一八〇cm深さ約三〇〇cmの素掘りタイプである。木簡は、最下層の灰色粘土より、軒丸瓦・肥前磁器碗・土師質羽釜・木片など近世の遺物とともに投棄された状態で出土したので、近世のものであろう。